

企業 コスト増に不安

12/8 朝日

記者会見で料金再値上げの方針を発表する関西電力の八木誠社長(大阪府北區)



八木社長 会見やりとり

八木誠社長の記者会見の主なやりとりは次の通り。

—なぜ再値上げを？

「いまの料金は高浜原発3、4号機と大飯原発3、4号機の計4基の稼働が前提。高浜は再稼働手続きが進むが、大飯は工事に相当な時間がかかる。このままだと2014年度に続き、15年度まで5年連続の赤字もあり得る。企業の存続が危ぶまれ、電力供給にも支障が出る」

—コスト削減など経営効率化は十分ですか。

「土地や有価証券の売却を進めてきた。追加の効率化策も検討している」

—八木社長が経営トップ、森詳介会長も財界活動を続ける理由は。

「収支の安定化を図り、電力の安定供給に全力を尽くすのが私の経営責任だ。電気事業は地域密着の産業。(財界活動を続けるのは)関西の成長と発展に寄与する点で意義がある」

関電再値上げ方針

高浜原発再稼働の続きが前進した17日、関西電力は再値上げの方針も発表し、電気をたくさん使う企業にとっては、せっかく業績が向上してきたのに、新たなコスト高の要因だ。ただ、再値上げに頼らないと財務上の不安が大きい関電の事情がある。▼一面参照

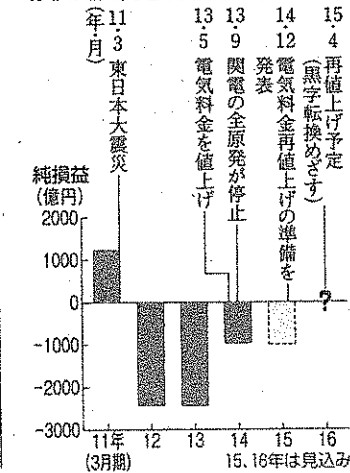
「厳しいコスト競争下にある企業にとって、安定的で安価な電力供給が極めて重要だ」。シャープの高橋興三社長は17日、関電の再値上げ表明を受けたコメントで、電力の必要性を認めつつ、こう加えた。

関電は昨年5月にも電気料金を値上げした。企業は「厳しいコスト競争下にある企業にとって、安定的で安価な電力供給が極めて重要だ」。シャープの高橋興三社長は17日、関電の再値上げ表明を受けたコメントで、電力の必要性を認めつつ、こう加えた。

「自助努力で補いきれない」

値上げしたら安定供給が困難になる」という。中小企業への影響も大きい。金鳳製パン製造の富士発条(大阪府大東市)は東日本大震災後、節電で電気代を2割ほど減らしたが、関電の値上げで以前の水準に。再値上げについて山中善博社長は「企業努力によるコストダウン」と関電に求める。

赤字が続く関電の決算(速報)



関電財務も瀬戸際

「負担を強いる再値上げ 深くおわびします」。17日、大阪市の本店で会見し、お願いせざるを得ない。日、大阪市の本店で会見し

値上げで年6億円ほど電気代が上がった。節電も進められたが、照明の間引きは一部で少くした感がある。来店客から「暗すぎる」と苦情を寄せた。広報は「節電はやり尽くした感がある」。(山村哲史、神沢和敬)

東電 再値上げ見送りへ

東京電力は17日、2015年3月期決算の経常利益が2270億円の黒字となる見通しを発表した。燃料費の抑制などのコスト削減が目録額より約2600億円上積みできたため、原発が止まったままでも大幅な黒字を確保できる見通しだ。

関電の試算では、高浜の2基が1カ月動けば約190億円、大飯の2基が動けば約250億円、利益が押し上げられる。豊富な火力発電の燃料を使わずに済むからだ。

関電は、4基すべてが動かないと再値上げは避けられないと強調する。決算は4年続けて純損益で赤字になるのが確実。さらに純利益と債務超過の恐れも出てくる。金融機関などが危ぶめば、お金を借りにくくなりかねない。八木社長は「資金調達できないと電気の安定供給に大きな影響が出る。安定供給の使命を果たすためにも、値上げに理解を」と訴えた。(西村宏治)